

2019 年 12 月 20 日

報道関係 各位

一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会

事務機械の「全世界出荷に関する 2019 年の見込み及び 2020 年の予測」の発表

一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会（会長：山下 良則／株式会社リコー代表取締役 社長執行役員 CEO）は、この度、全世界市場を対象とした事務機械の出荷に関する実績と本年見込み及び予測をとりまとめましたので発表致します。

なお、この出荷見込み及び予測の調査にあたっては、外部の調査機関（株式会社インターウォッチ）に委託し、取りまとめを行いました。

ホームページに掲載しております事務機械出荷実績（JBmia 集計）、複写機・複合機出荷統計（JBmia 集計）は、会員企業の出荷実績のみであることから、今回の予測に用いている数値（全世界メーカーによる出荷合計）とは異なりますのでご注意ください。

また、本予測数量及び金額は、事務機械本体のみを対象としています。

2018 年出荷実績

国 内： 3,824 億円（前年比：－） 101.4%（共通品目での前年比）

海 外： 16,114 億円（前年比：－） 101.4%（同上）

総出荷：19,938 億円（前年比：－） 101.4%（同上）

※2018 年度に大判インクジェットプリンターが加わったため前年比なし（注釈参照）

2019 年見込み

国 内： 3,915 億円（前年比：－）	97.1%（共通品目での前年比）
海 外： 18,134 億円（前年比：－）	94.7%（同上）
総出荷：22,049 億円（前年比：－）	95.2%（同上）

※2019 年度にページプリンター(MFP)が加わったため前年比記載なし（注釈参照）

2020 年予測

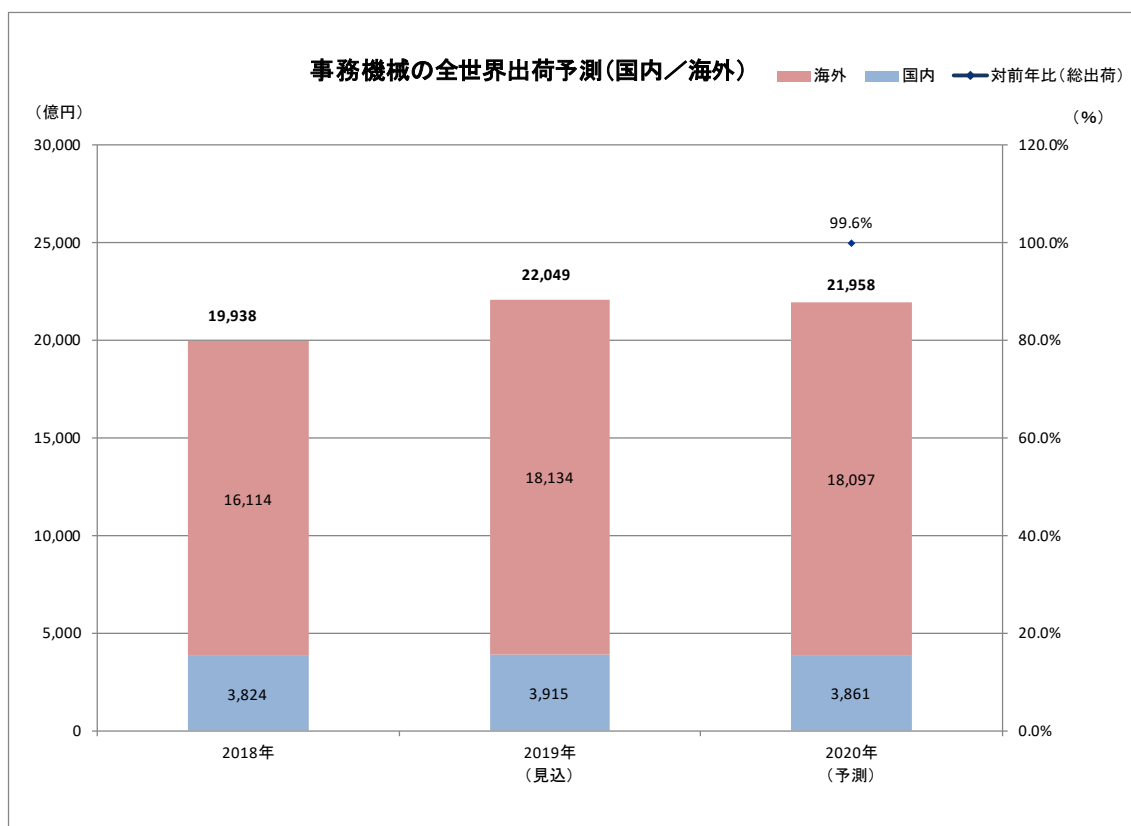
国 内： 3,861 億円（前年比： 98.6%）
海 外： 18,097 億円（前年比： 99.8%）
総出荷：21,958 億円（前年比： 99.6%）

<注釈>

- *本資料の内容は、会員企業の2018年出荷実績及び2019年見込、2020年予測と会員企業以外の各年度の想定規模を合計したものである。
- *2018年及び2019年はその年の実勢レートを用い、2020年の予測については2019年の実勢レートをベースに為替影響を除いて金額を算出している。
- *調査対象品目は、2018年に大判インクジェットプリンター、2019年にページプリンター（MFP）を追加したため、年度により品目数が異なる。各年度に含まれる品目は以下の通り。

	2017 年	2018 年	2019 年 ～
調査対象品目数	7 品目	8 品目	9 品目
複写機・複合機	○	○	○
ページプリンター（SFP）	○	○	○
ページプリンター（MFP）	-	-	○
データプロジェクター	○	○	○
パーソナル情報機器（電卓/電子辞書）	○	○	○
流通情報システム機器（ECR/POS）	○	○	○
デジタル印刷機	○	○	○
シュレッダ	○	○	○
大判インクジェットプリンター	-	○	○

1. 概況



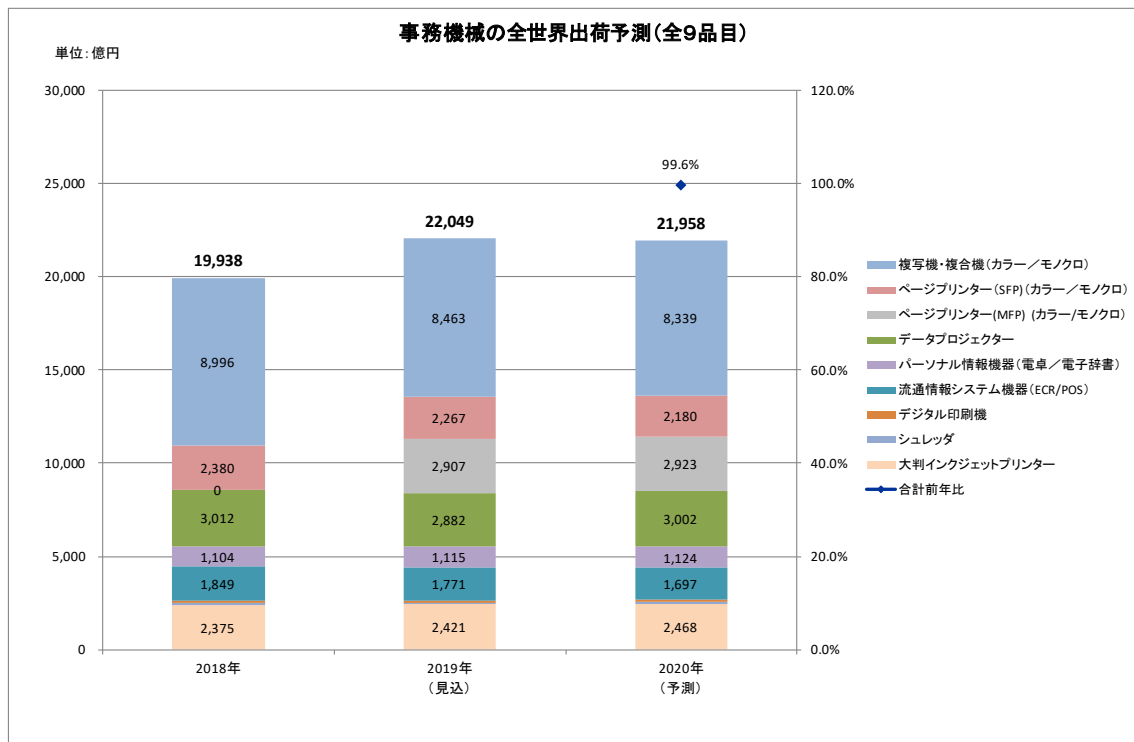
単位：億円

	2018 年		2019 年(見込)		2020 年(予測)	
		前年比		前年比		前年比
国 内	3,824	—	3,915	—	3,861	98.6%
海 外	16,114	—	18,134	—	18,097	99.8%
合 計	19,938	—	22,049	—	21,958	99.6%

【参考】 共通 7 品目における推移と前年比

単位：億円

	2018 年		2019 年(見込)		2020 年(予測)	
		前年比		前年比		前年比
国 内	3,699	101.4%	3,593	97.1%	3,535	98.4%
海 外	13,864	101.4%	13,127	94.7%	13,031	99.3%
合 計	17,563	101.4%	16,720	95.2%	16,566	99.1%



【2019 年】

事務機械全体の総出荷金額は、2018 年は世界経済の回復の影響を背景として「ページプリンター (SFP)」などが減少推移から前年並みになった他、「データプロジェクター」「パーソナル情報機器」「流通情報システム機器」「シュレツダ」などの品目が対前年から増加しており、2017 年の集計が無かった「大判インクジェットプリンター」を除く 7 品目で前年比 1.4%増となった。

2019 年の国内市場においては、リーマン・ショック以降の順調な内外需の回復を背景に景気動向指数は好調に推移している。「ページプリンター (SFP)」「データプロジェクター」「パーソナル情報機器」「シュレツダ」「大判インクジェットプリンター」は増加の見込みであるものの、「複写機・複合機」は減少傾向のため、全体の数量・金額は減少の見込みとなった。

海外市場においては、世界経済の成長率は、2017 年には 3.2%、2018 年には 3.6%となっているが、2019 年は当初見込みからも下方修正されて減速傾向になって来ている。主な要因としては、「米中間の通商問題の影響による経済の減速」「英国の EU 離脱交渉の動向の不透明感」が挙げられる。これらの国内、海外の経済要因などで 2019 年の着地見込みは「ページプリンター (MFP)」「大判インクジェットプリンター」を除く 7 品目で比較すると 4.8%減となっている。

【2020 年】

日本国内の経済成長率は相変わらず率は低いものの、期間としては戦後最長の景気回復期間になって来ている。そうした環境の中、政府はアベノミクスの3本の矢として「大胆な金融政策」「機動的な財政政策」「民間投資を喚起する成長戦略」を打ち出した。これにより大手企業を中心に企業収益が改善され、投資意欲の高まりがみられ複写機・複合機やプリンターなどのオフィス用途の機器もその影響を若干ながら受けている。

しかしながら企業における事務機の導入は一巡しており、大きく需要が喚起されることは無く事務機械全体の出荷の金額は微減が継続していくと予測される。2020年の東京オリンピック・パラリンピックによる都内のオフィスビルの新築や建て直しに伴う事務機需要の増加や、軽減税率対応の特需などのプラス要因もあるが継続的な需要の喚起とはならないと想定される。

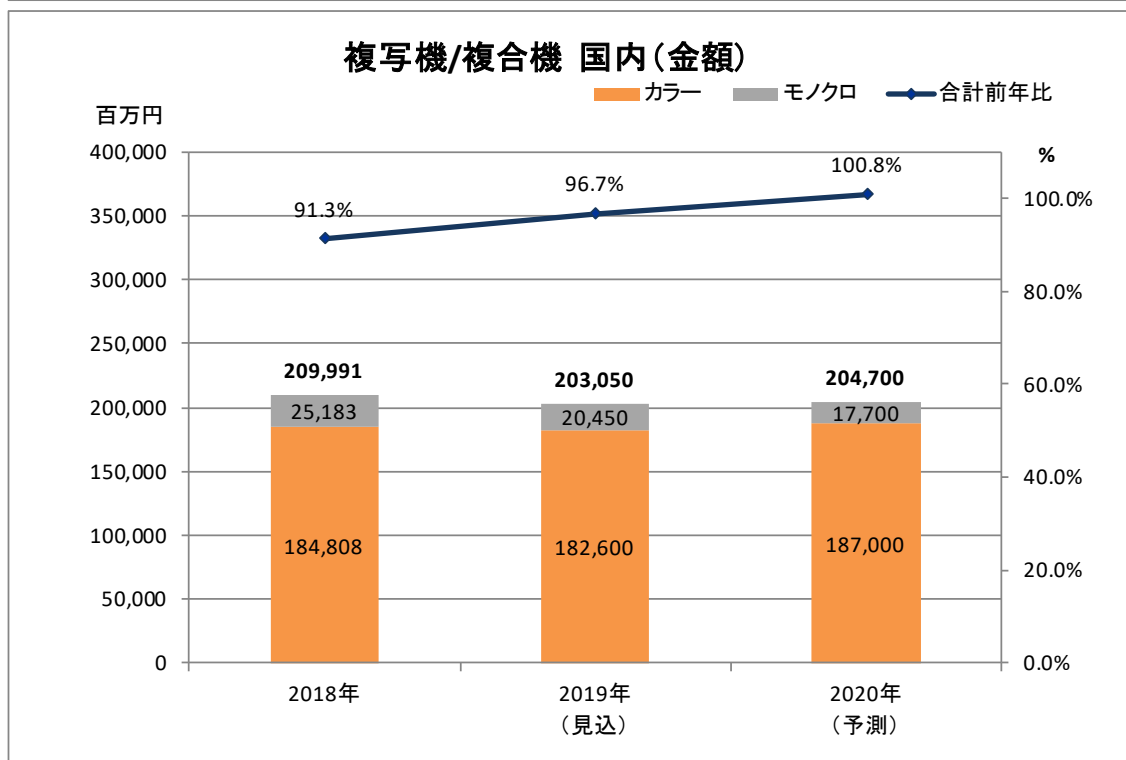
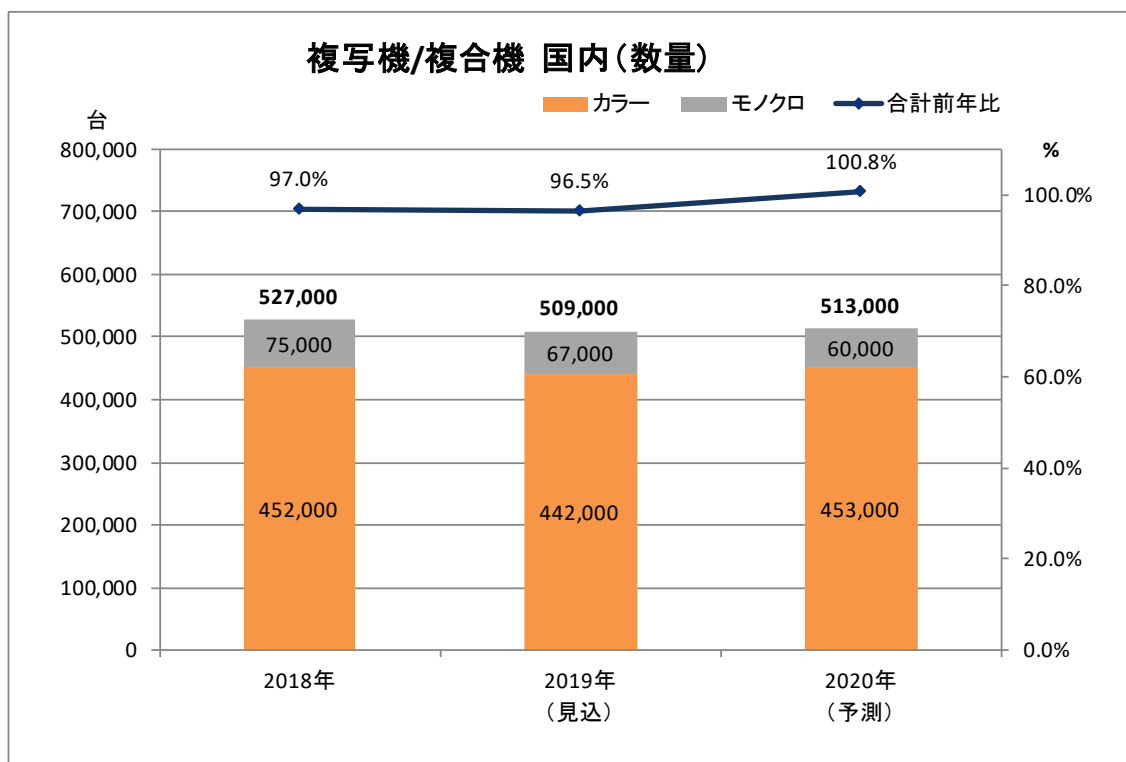
海外市場においては、2018年7月6日から開始されたアメリカの対中国輸入への追加関税措置と、それに対抗した中国の対アメリカ輸入への追加関税措置は、その後双方の対抗措置の対象品目と金額が拡大している。それにより世界経済への影響も懸念されており経済成長の予測も下方修正されている。

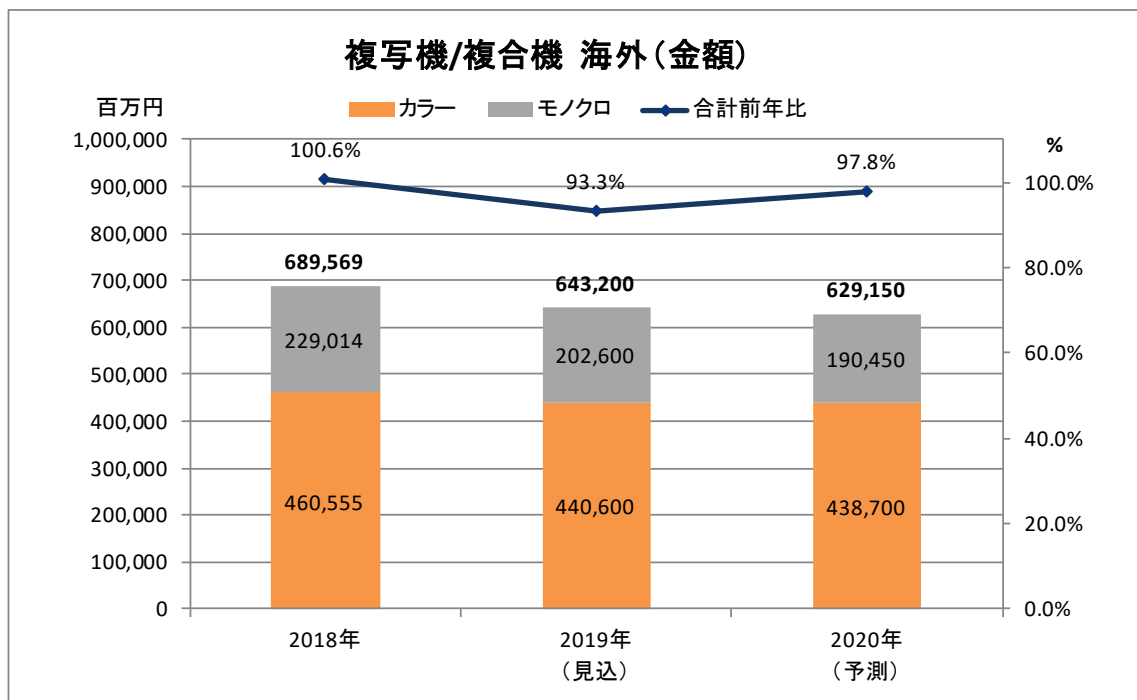
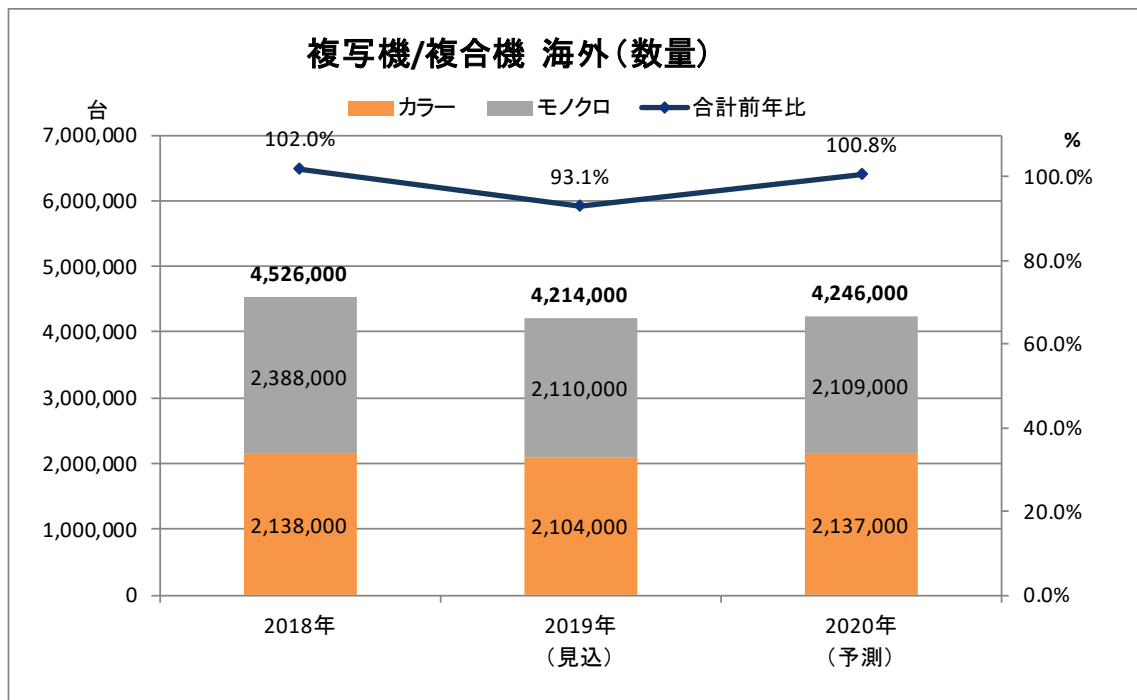
また欧州においても、英国は2016年6月23日の国民投票の結果、EUからの離脱を目指す方向となった。2017年6月19日には第1回Brexit交渉会合が開かれ交渉会合は2017年に6回まで及んだが、第1段階の「EU市民権の保全」、「離脱清算金の処理」、「北アイルランドの国境問題」の3分野に対しても大きな進展は無いまま経過して来ている。英国のボリス・ジョンソン首相は、EUとの合意のあるなしにかかわらず、来年1月末の英国のEU離脱を目指す姿勢を強めており、今後の不透明感が増している。このように経済動向への懸念が広がる中需要は少しずつ縮小傾向で推移していくと予想される。

事務機業界全体としては、「ページプリンター（MFP）」「データプロジェクター」「パーソナル情報機器」の他、「シュレッダ」のように日本国内市場においてより単価の高い機器へ需要がシフトし金額ベースが伸びる品目もあるものの、全体金額は微減が予測される。そのため各事務機器の品目においても機器本体やそのサプライ収益だけでなく、AI/IoT技術の進化を前提にした新たなワークスタイルの提案や人手不足などによる働き方改革推進などのニーズに呼応したサービスやソリューションとの組み合わせとその提供のビジネスモデルの構築を各社とも模索して来ている。

2. 品目別予測

(1) 複写機・複合機





【2019 年】

<国内市場>

- ・数量・金額とも減少の見込み。
- ・モノクロ複写機・複合機は数量・金額とも大幅な減少の見込み。
- ・カラー複写機・複合機も数量・金額とも減少の見込み。2019 年のカラー比率は数量ベースで約 90%に届く見込み。

<海外市場>

- ・数量・金額とも減少の見込み。
- ・中国市場は市場回復で 2018 年のモノクロ需要の下支え要因となり、2019 年は急激な回復基調は落ち着くものの、特にカラー機での伸びが見込まれる。
- ・カラー機は中国以外のアジア、その他地域などでも伸びるものの北米、欧州の減少分をカバーできず、トータルでは減少となる見込み。

【2020 年】

<国内市場>

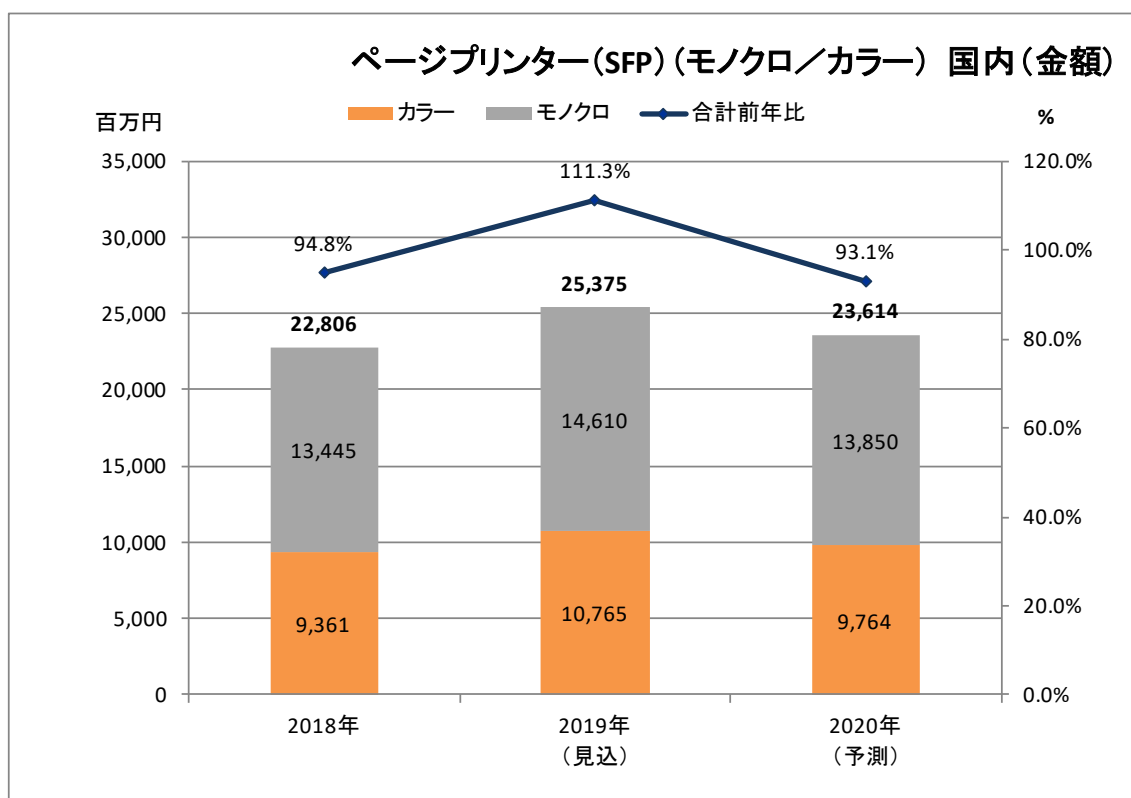
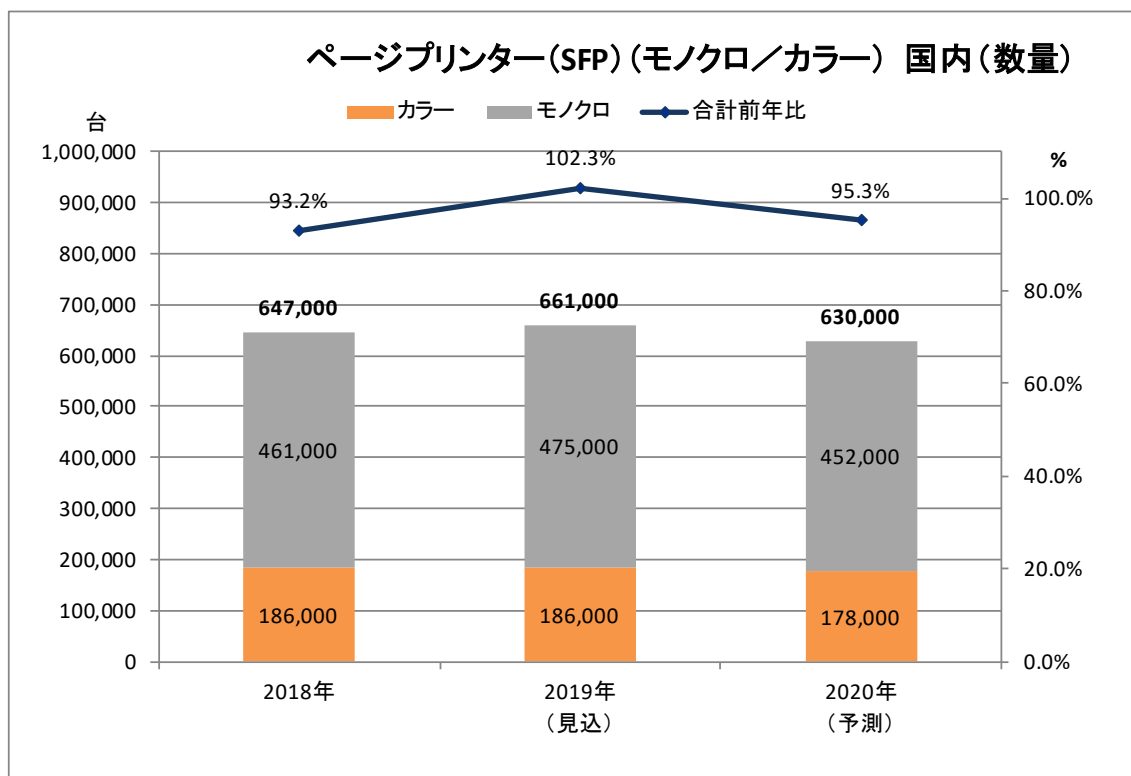
- ・複写機・複合機の出荷が一巡しているため減少基調にあるが、2020 年の数量はリプレイス案件の要因により増加し、金額も増加と予測される。

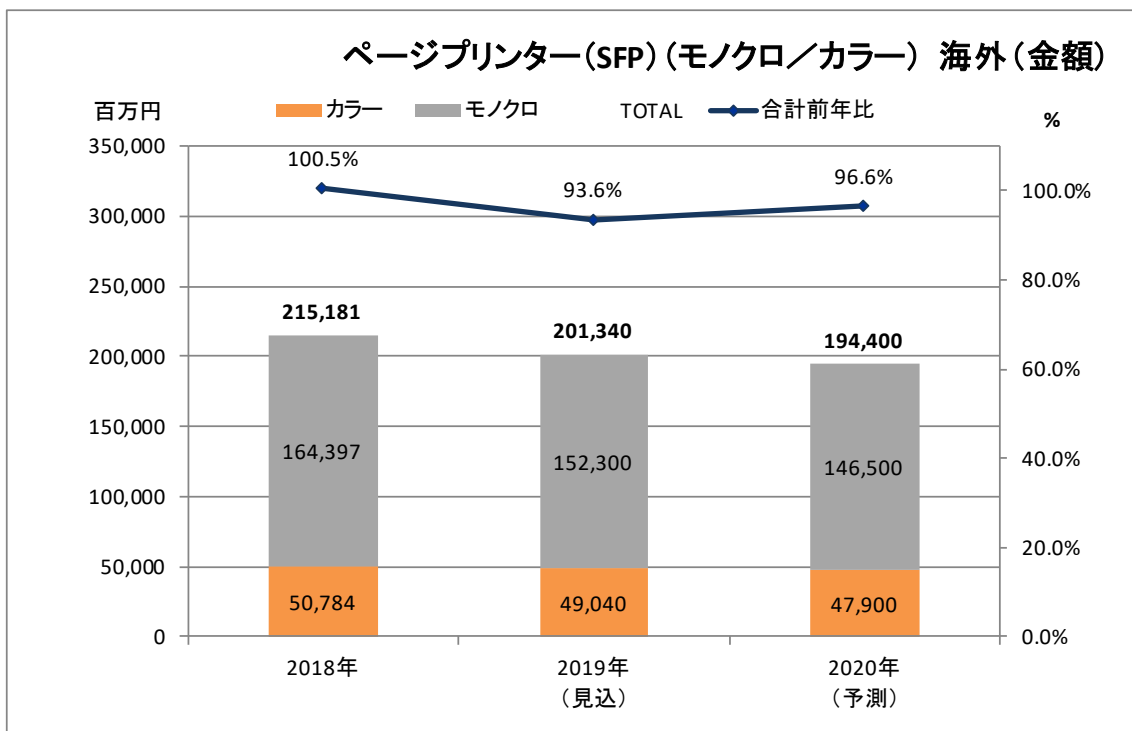
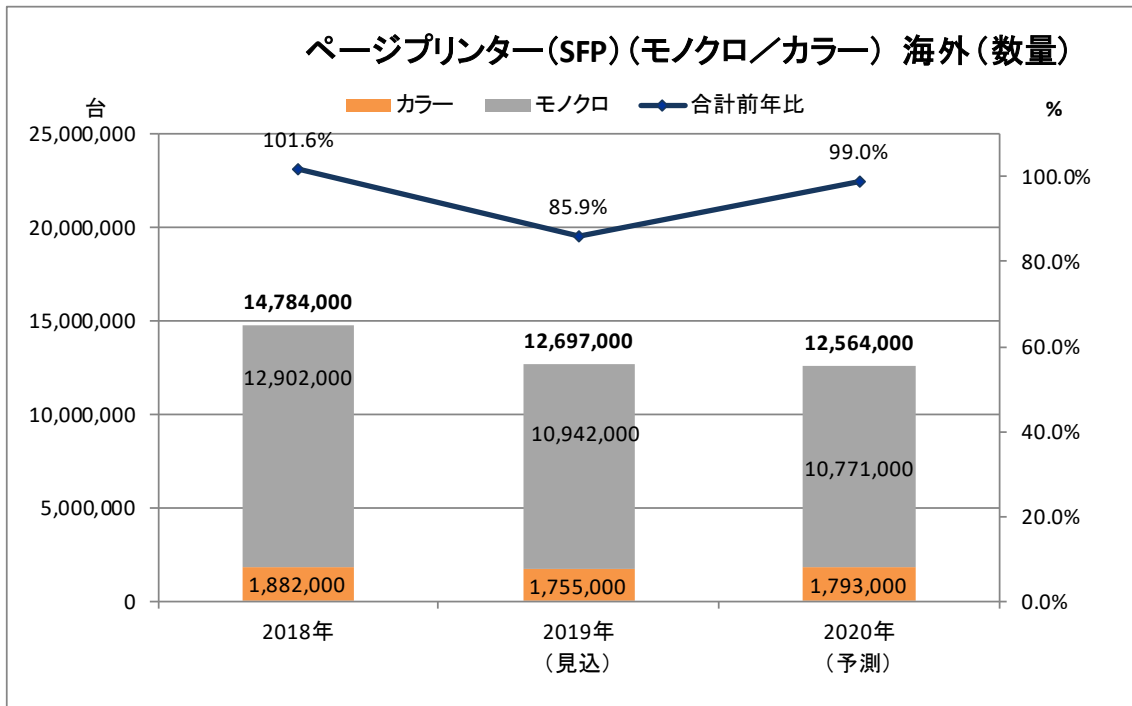
<海外市場>

- ・北米の他、中国・アジア・その他地域市場においてカラー機の数量拡大があるもののトータルでは減少していくと予測される。

＊「複写機・複合機」の対象製品は電子写真方式のみである。

(2) ページプリンター (SFP)





【2019 年】

<国内市場>

- ・モノクロ機は 2018 年の大幅減少の反動で数量・金額とも増加の見込み。カラー機も 2018 年の増加に続き、2019 年も微増で着地と予想される。

<海外市場>

- ・モノクロ機は中国市場をはじめ各地域での伸びなどで 2018 年の増加した分の反動もあり大幅な減少となると予想される。カラー機の数量・金額も減少の見込み。
- ・対前年実績値はないが、各地域において SFP から MFP へのシフトも減少の要因となっていると推測される。

【2020 年】

<国内市場>

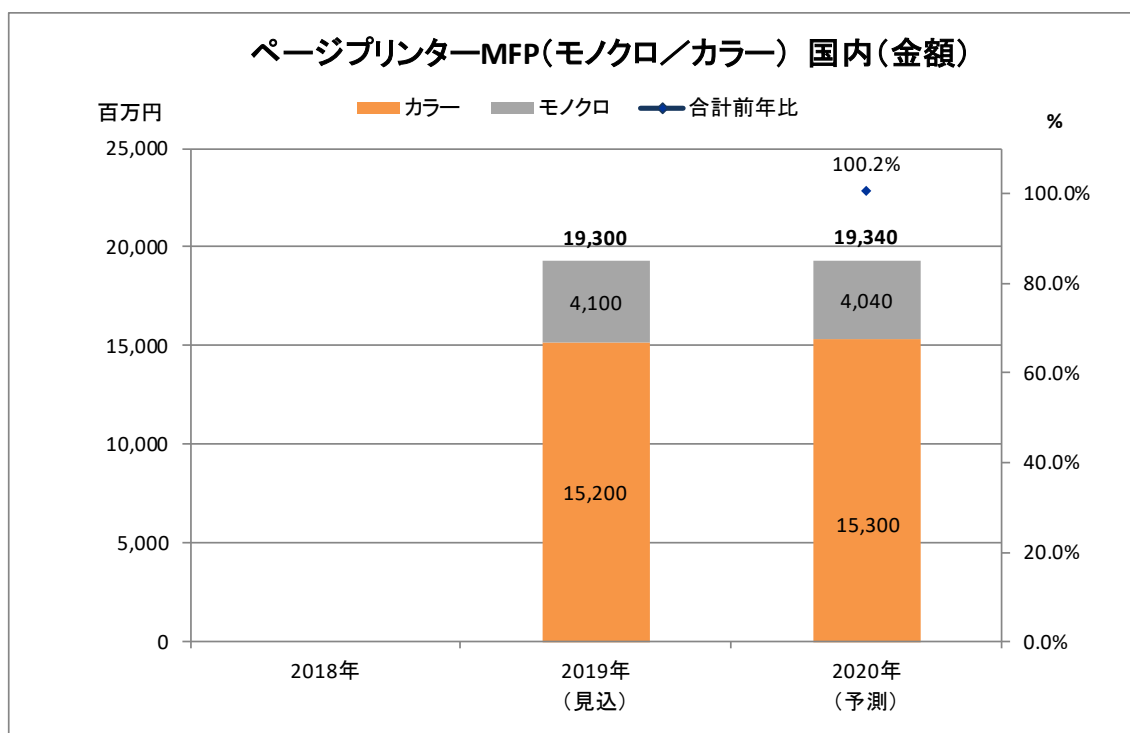
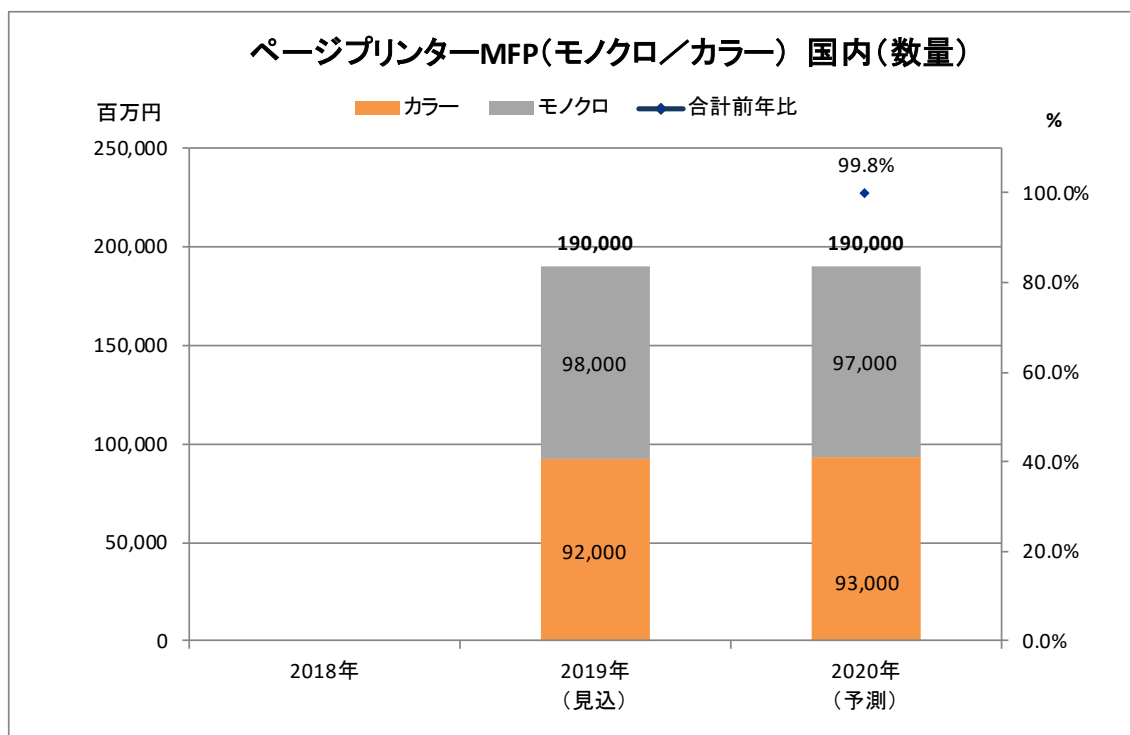
- ・更新需要が中心となっており、かつ A3 複合機への集約や A4 複合機とのシフトが進むなど増加要因は少なく数量・金額とも減少が続いていくと予測される。

<海外市場>

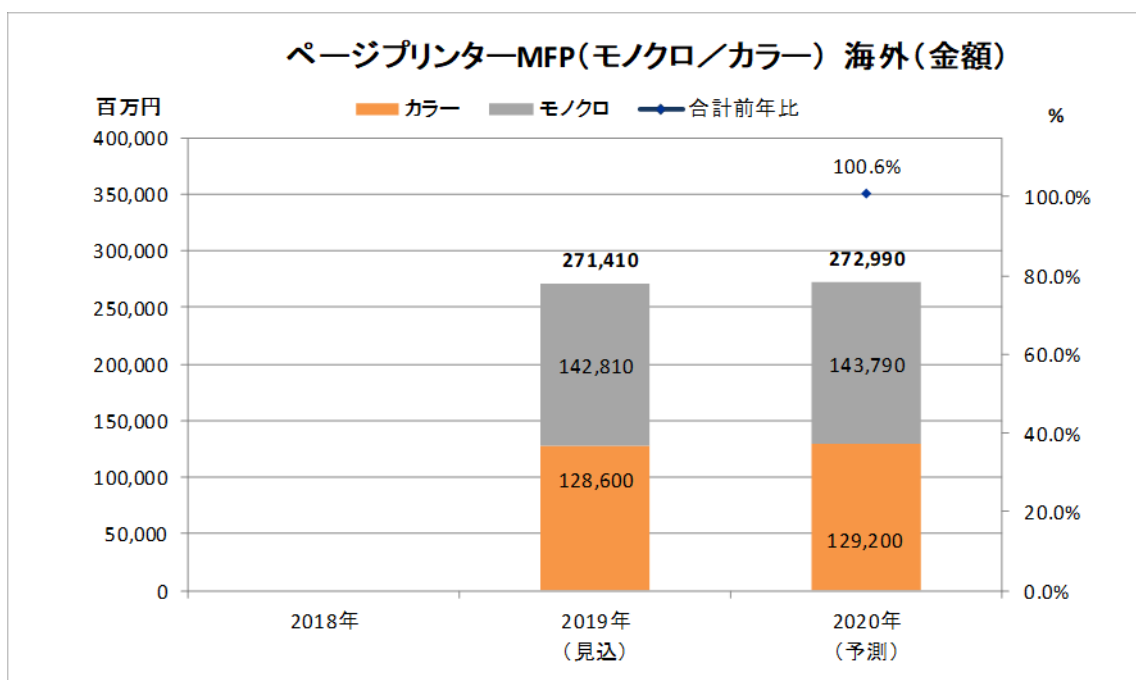
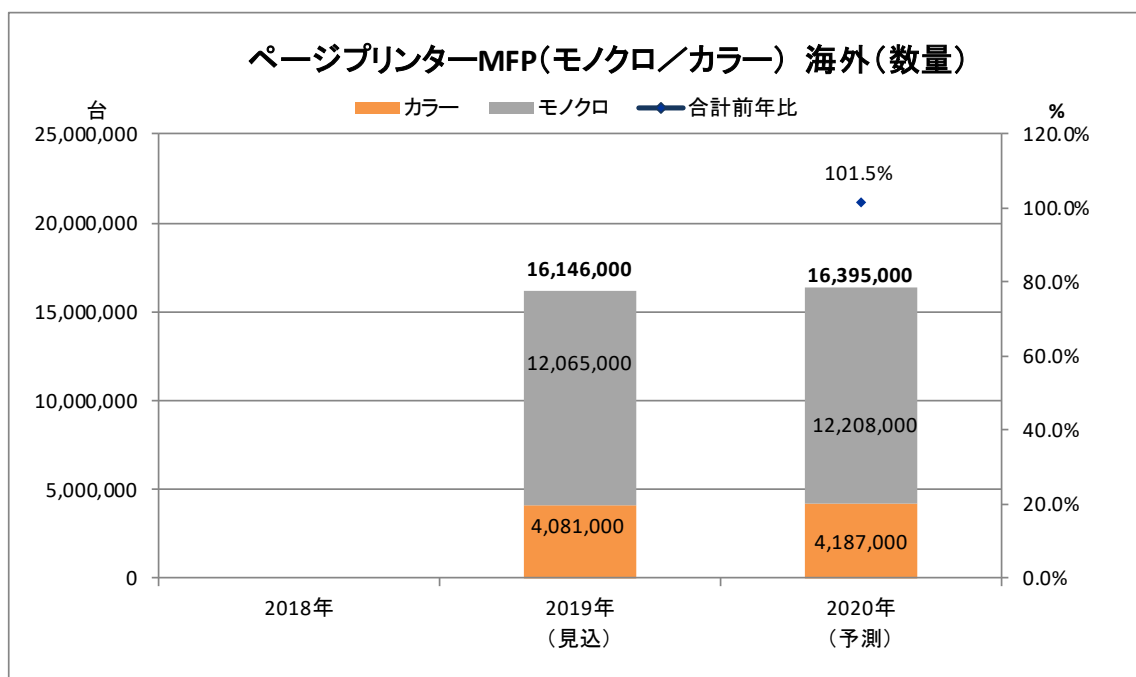
- ・海外市場全体で数量・金額とも減少が続くと予測される。
- ・海外市場の中で、その他地域はページプリンター（SFP）の比率が相対的に見て大きいという特徴がある。中国を含めそれ以外のアジアやその他地域などの新興国においては、モノクロからカラーへのシフトによりカラー機の台数比率が増えていくと予測される。しかしこういった地域においてもページプリンター（MFP）へのシフトやビジネスインクジェット機の浸透などの要因によって、モノクロ機を含めたページプリンターの需要は減少傾向となると予測される。

* 「ページプリンター（SFP）」の対象製品は電子写真方式のみである。

(3) ページプリンター (MFP)



※ページプリンター (MFP) は出荷統計の集計は 2019 年からとなっている。



※ページプリンター (MFP) は出荷統計の集計は 2019 年からとなっている。

【2019 年】

<国内市場>

- ・国内市場において、モノクロのページプリンター（MFP）は A3 サイズが 32%弱を占めており海外市場との比較において相対的に A3 サイズの比率が高いことが特徴となっている。

<海外市場>

- ・海外市場においてはどの地域においても A4 サイズの比率が大部分を占めている。モノクロ機の比率は 74%強と国内市場と比較して比率が高い。

【2020 年】

<国内市場>

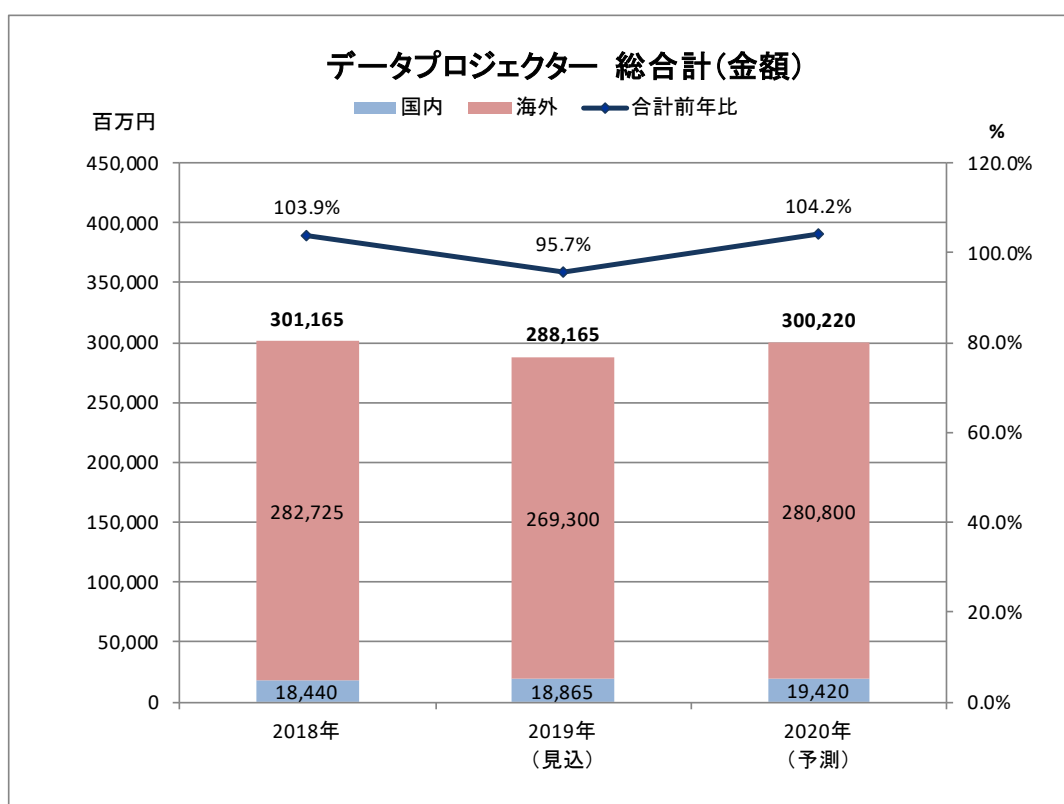
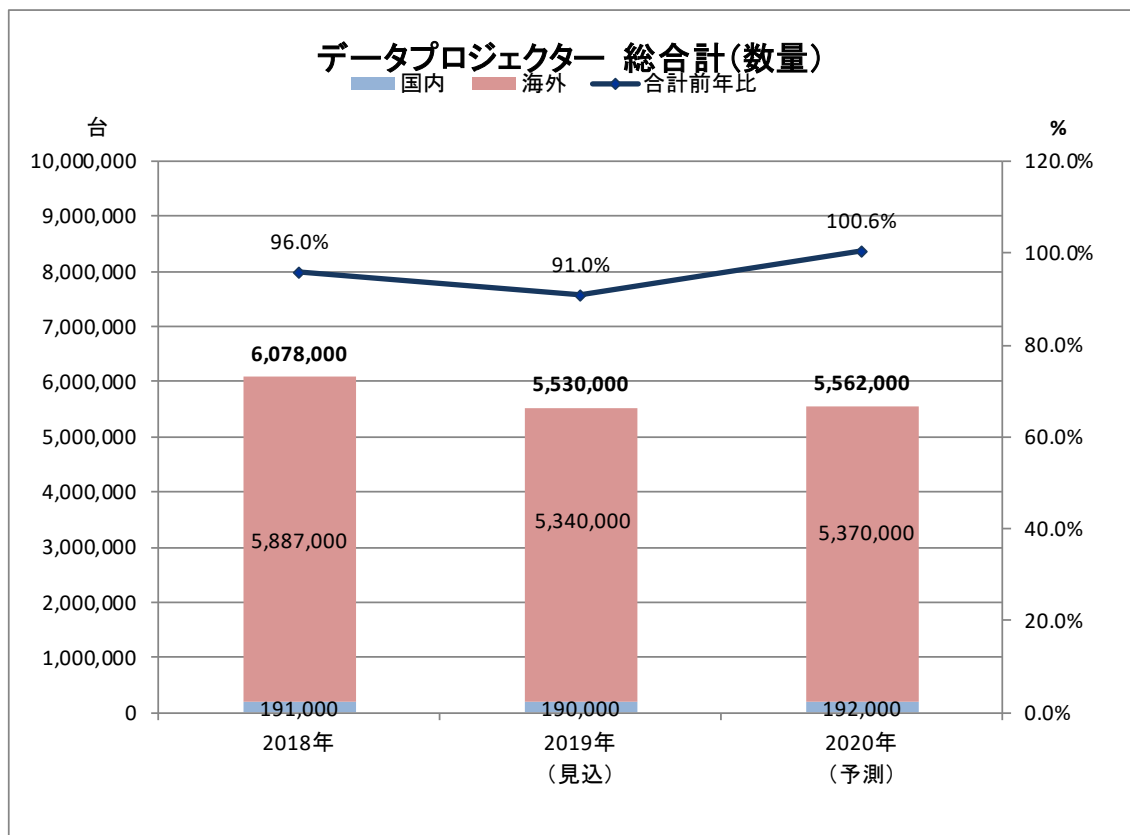
- ・モノクロ機が A3 サイズ、A4 サイズともに、スキヤニング用途が必要な病院や店舗などでの底堅い需要はありつつも、ビジネスインクジェット機への移行やカラー機への移行をしながらほぼ横ばいでわずかに微減すると予測される。

<海外市場>

- ・A4 サイズを中心とするモノクロのページプリンター（MFP）はモノクロ需要の強い中国市場を中心に、その他のアジア地域、その他地域などにおける MFP シフトなどの影響で伸長していく。
ページプリンター（MFP）の A3 サイズにおいては、底堅い需要はあるものの微減傾向が続いていくと予測される。カラーシフトによりカラーのページプリンター（MFP）の A3 サイズは微増となるものの、モノクロページプリンター（MFP）の A3 サイズの減少分をカバー出来ない形で微減が継続すると予測される。

* 「ページプリンター（MFP）」の対象製品は電子写真方式のみである。

(4) データプロジェクター



【2019 年】

＜国内市場＞

- ・ 2019 年の国内台数の着地見込みは、オリンピックのデジタルサイネージ用途などはあるものの、最大の需要期の 2018 年度末の需要があまり伸びなかったため、前年を若干下回ると見込まれる。金額は単価の上昇傾向が継続し、プラスで着地すると見込まれる。

＜海外市場＞

- ・ 海外市場に関しては、国内需要と同様に単価の高い超・短焦点型のタイプの製品が国内メーカーを中心に販売展開が活発になって来ているため、数量と比較して 2019 年の金額は落ち込みが少なくなっている。

【2020 年】

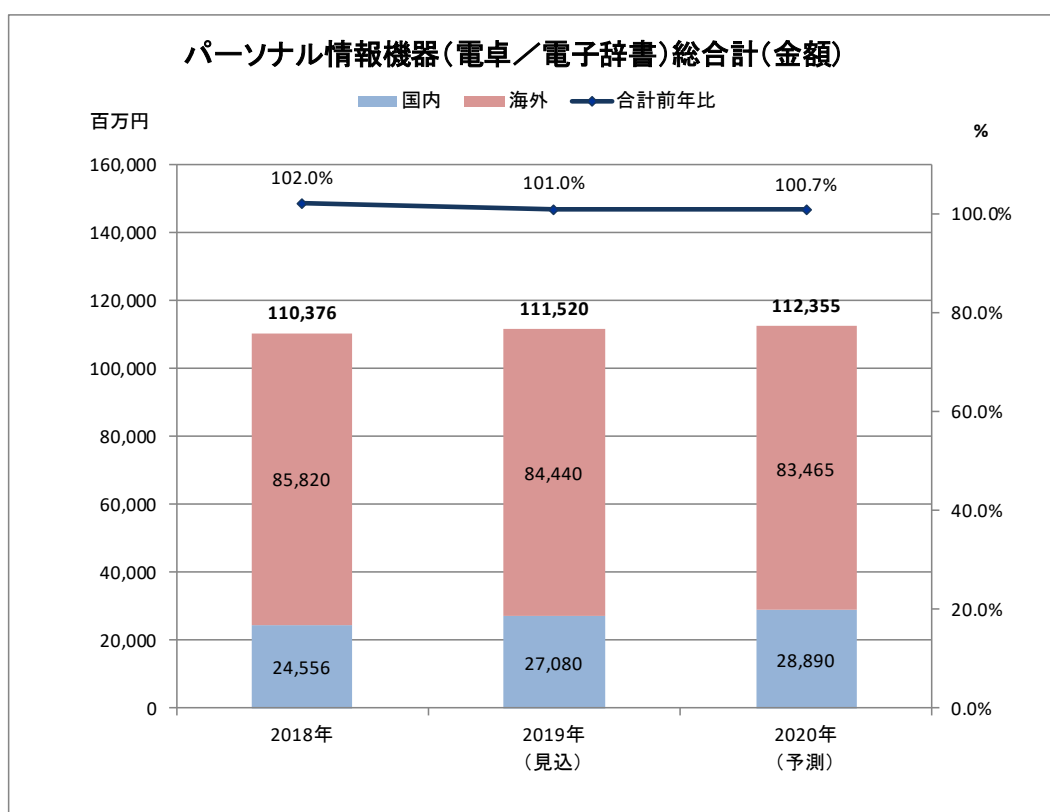
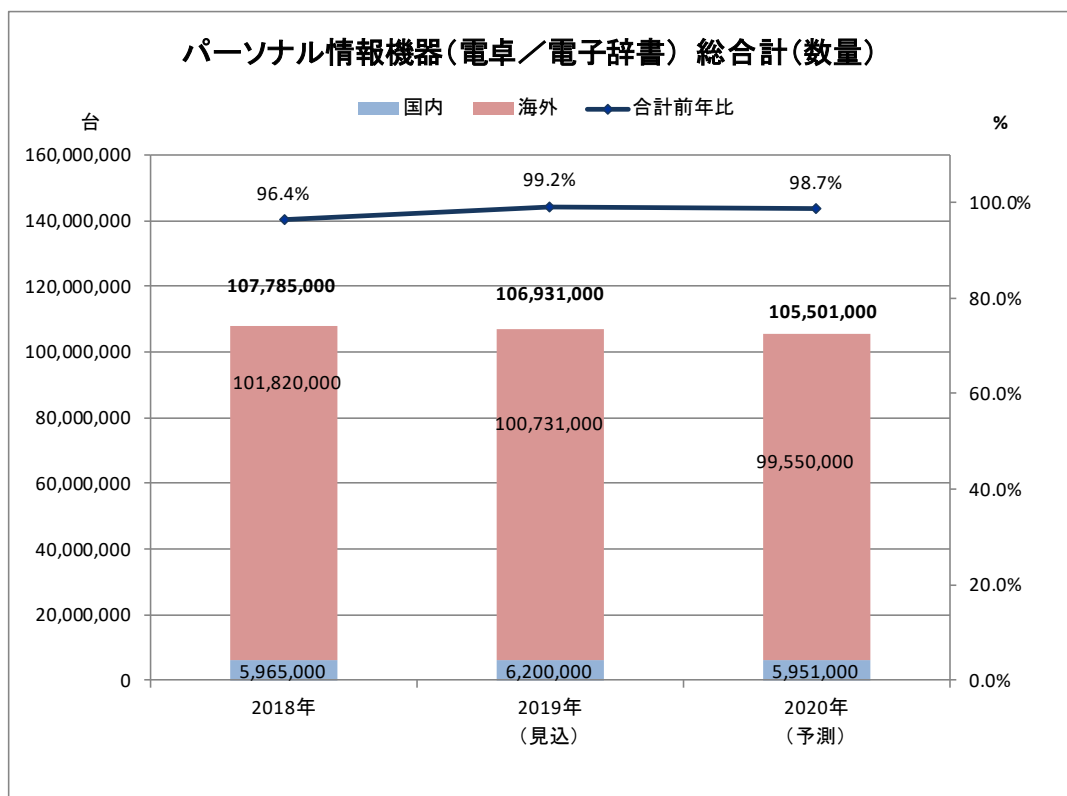
＜国内市場＞

- ・ 2020 年は、東京地区を中心に新ビル建設に伴う移転件数が増大し、会議室用などのプロジェクター需要が下支えすることで、対前年では微増と予測される。
- ・ 国内市場は海外先進国と比較すると、まだまだ文教向けの普及率は低い状況である。しかし、小中学校向けは電子黒板用途で用いられる超・短焦点型のタイプが中心であり、金額単価が低いため、利益を確保しにくいビジネスとなっている。国内メーカー各社は、大学向けの高価格帯商品で、採算性を重視した高付加価値販売によりビジネスを下支えするものと予測される。

＜海外市場＞

- ・ 2020 年は 2019 年の落ち込みの反動で、若干需要は回復すると予測されるものの、全体の傾向としては台数、金額ともに微減で推移すると予測される。
- ・ 海外市場は、先進国への普及は飽和状態にあり、中国及び新興国需要が市場拡大のポイントである。2019 年以降、中国でのデジタルサイネージ用途、ホームシアター用途の需要が伸びれば、台数、金額ともに予測数字を上回る可能性はありうるものの、現在の状況では大きな期待はできない。

(5) パーソナル情報機器（電卓／電子辞書）



【2019 年】

＜国内市場＞

- ・ 2019 年の前半は需要が伸びなかった表示電卓の「軽減税率対応モデル」が 9 月以降駆け込み需要で急速な伸びをみせており、10 月以降も需要の伸びが見込まれ、2019 年はプラスに転じる見込みである。
- ・ 国内の電子辞書市場は、高校生向けがボリュームゾーンであることに変わりはなく、需要は維持されている。2019 年前半の伸びについては大手通信教育会社によるプロモーションが奏功し、シニア世代に売れたことが大きな要因である。

＜海外市場＞

- ・ 海外市場の通常の表示電卓は、ユーロ換算機能付きや中国の音声機能付き等の一部モデルの需要が伸びているものの、全体的には減少している。
- ・ 電子辞書の海外市場においては、中国市場が中心である。今後も教育熱は高くなることで、需要が見込まれるが全体では減少している。

【2020 年】

＜国内市場＞

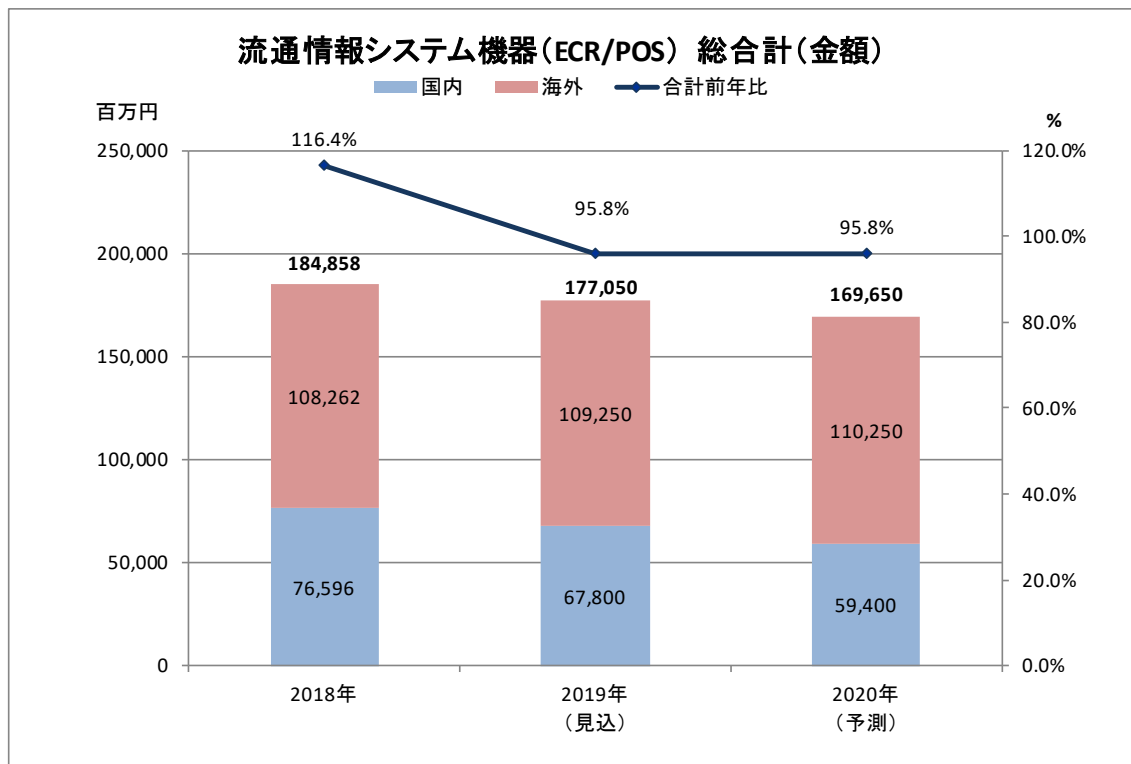
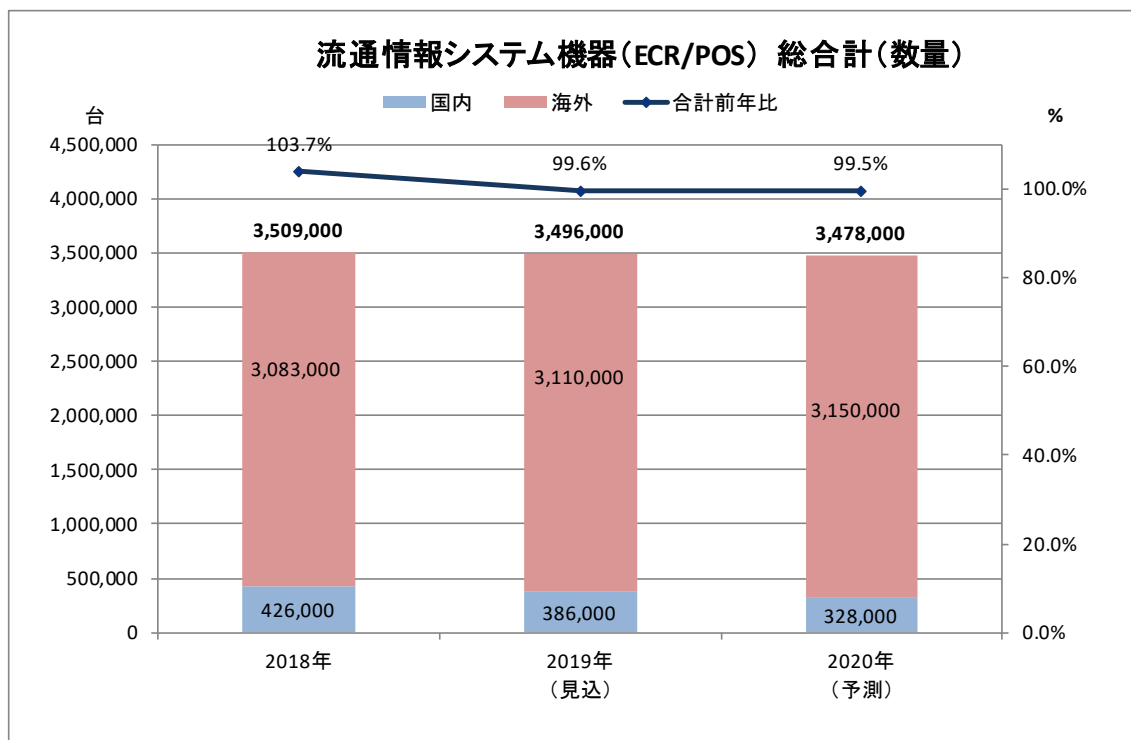
- ・ 電卓は 2020 年以降は 2019 年の特需も落ち着き、従来のように微減傾向で推移していくものと予測される。
- ・ 電子辞書は 2020 年からの小学校の学習指導要領の改正による伸びが予測される。

＜海外市場＞

- ・ 海外市場の通常の表示電卓は、今後も減少傾向となるものと予想される。
- ・ 関数電卓は海外市場では国内市場よりも表示式電卓と比較して販売比率が高く、単価の高い関数電卓が金額ベースの市場にプラス影響を与えている。
- ・ 中国、ASEAN 地域などの海外市場では教育現場でのタブレットやスマートフォンなどの使用は日本とは異なり禁止とはならないので、電子辞書の需要が拡大しにくい要因となっている。

＊「電卓」には 100 円均一ショップ等で販売されている海外製の低価格製品は含まない。

(6) 流通情報システム機器 (ECR/POS)



【2019 年】

＜国内市場＞

- ・2018 年は台数、金額とも増加となっている。これは、総合スーパーマーケット、衣料品店舗などにおける POS のセミセルフ化によるリプレイス需要により金額の増加傾向があったことに加えて、2017 年後半から大手顧客に単価の高い機種が各店舗に複数台導入され、2018 年に導入のピークをむかえた結果である。2019 年は POS の国内需要はその反動で落ち込むものの 2017 年比では伸びている。

＜海外市場＞

- ・ECR の台数がタブレット POS の浸透により継続的に減少しているものの POS 需要の増大は継続し、2019 年においては非会員企業も含めたトータルでの需要は微増となる。

【2020 年】

＜国内市場＞

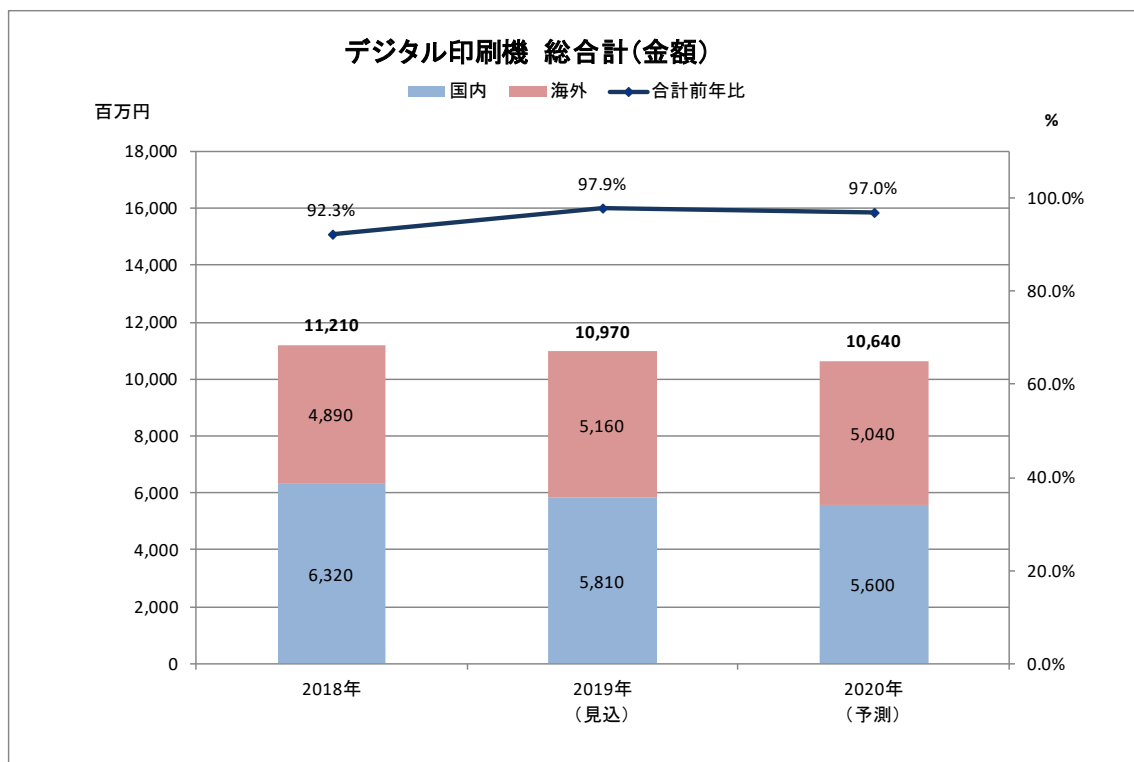
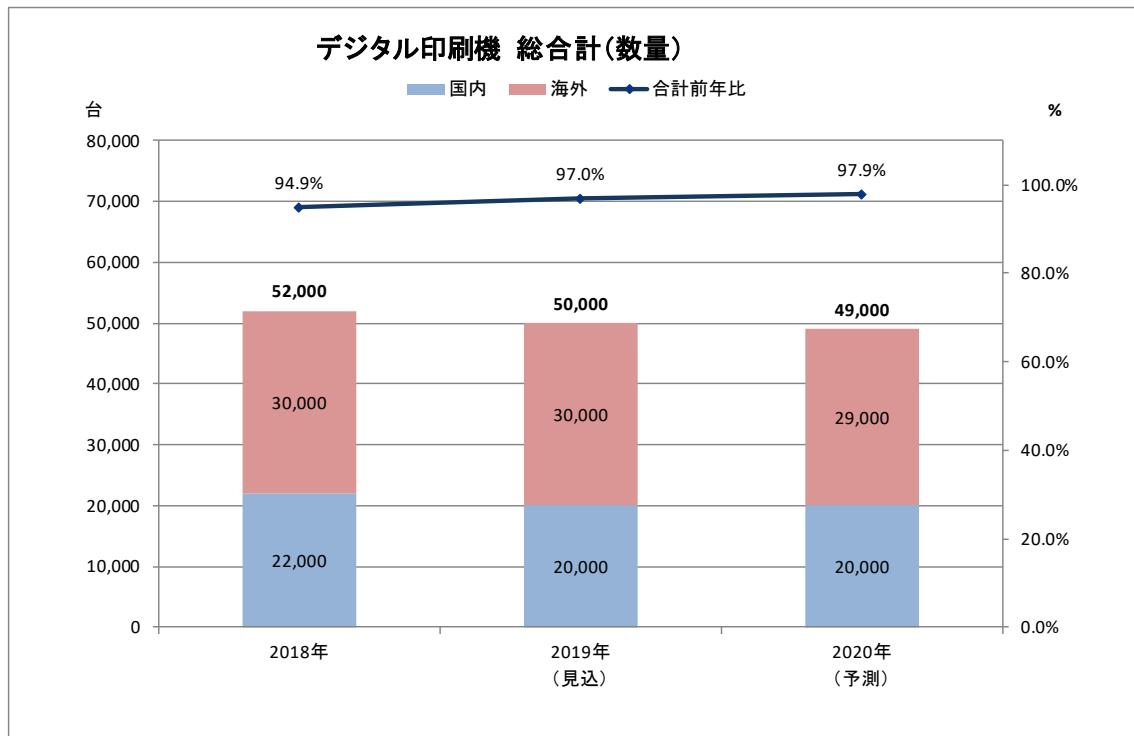
- ・2020 年は 2018 年の特需が落ち着き、更新需要などが減少すると予測され減少すると予測される。
- ・POS の国内出荷は 2020 年まではクレジットカードの IC 化の対応や 2020 年の東京オリンピック、パラリンピック開催に向けたインフラの整備やバーコード決済など、決済方法の多様化などへの対応、インバウンド需要の拡大などにとまなうシステムの更新が見込まれるものの 2018 年の特需を上回る需要とはならない。

＜海外市場＞

- ・2020 年も増加傾向が継続すると予測される。

* 「ECR/POS」にはパソコン POS は含まない。

(7) デジタル印刷機（孔版印刷機）



【2019 年】

<国内市場>

- ・国内市場は自治体や文教においては根強い需要があるものの、減少傾向は変わっておらず、2018 年、2019 年とも対前年比ではマイナスとなっている。
- ・国内市場は電子写真の複写機・複合機のハイエンド機に関して 2018 年以降、チャージ料金下落傾向の状況や、生徒数の減少などの要因により同じ原稿をプリントする枚数も減って来ているといった状況でレーザープリンターのユーザー層のみならずデジタル印刷機の用途に対しても、一部に複写機・複合機のみで機器を統合する流れが見られる。これがデジタル印刷機の設置台数が国内市場において減少する要因の一つとなっている。A3 インクジェット・複合機からの製品も増えて来っており、底堅い需要はあるものの少しずつ他の機種に置き換えられていく傾向となっている。

<海外市場>

- ・海外市場においては、2019 年は一括商談などの影響により対前年比でプラスとなると予想される。

【2020 年】

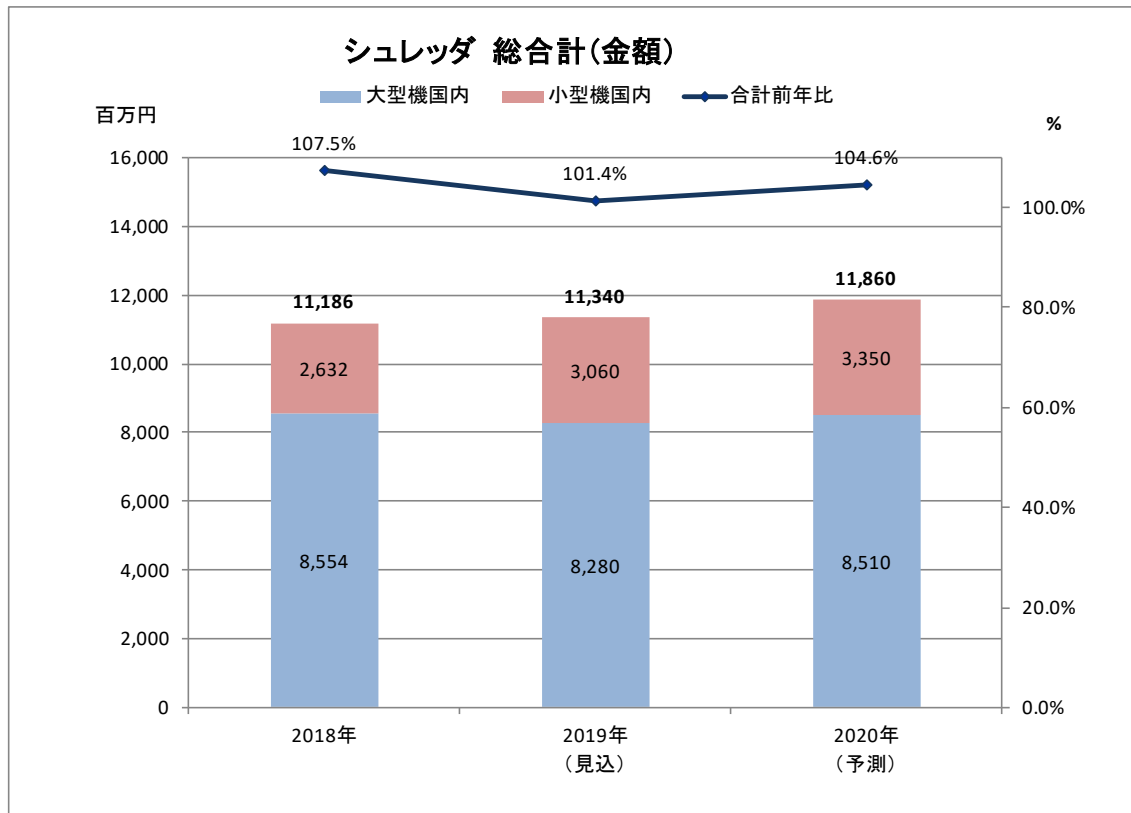
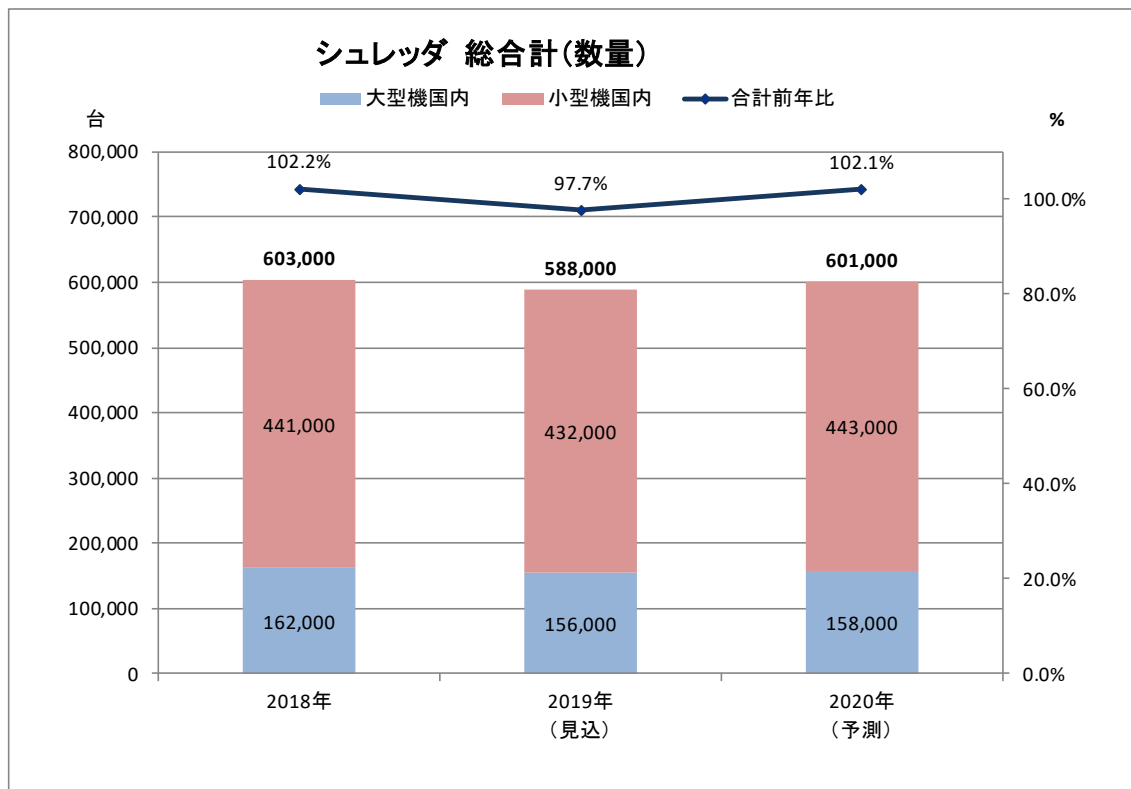
<国内市場>

- ・文教向けには ICT 投資として電子黒板やタブレットの導入に予算が振り向けられることもあるが、人口減少の影響で学校数自体も減少していくものと予測され、より厳しい市場環境となっていくものと予測される。さらに少子化による 1 クラスの生徒数の減少によって多部数の印刷によるデジタル印刷機のコストメリットが活かすことができなくなりつつあり、2020 年も市場全体は減少していくものと予測される。

<海外市場>

- ・2020 年は数量、金額ベースともに減少に戻ると予測される。期待されていた新興国地域において伸びない要因としては、既に形成されている複写機・複合機の中古機市場の存在があり、デジタル印刷機以上の低価格帯で学校、自治体、コピーショップなどに多く導入されている点が挙げられる。

(8) シュレッダ



【2019 年】

＜国内市場＞

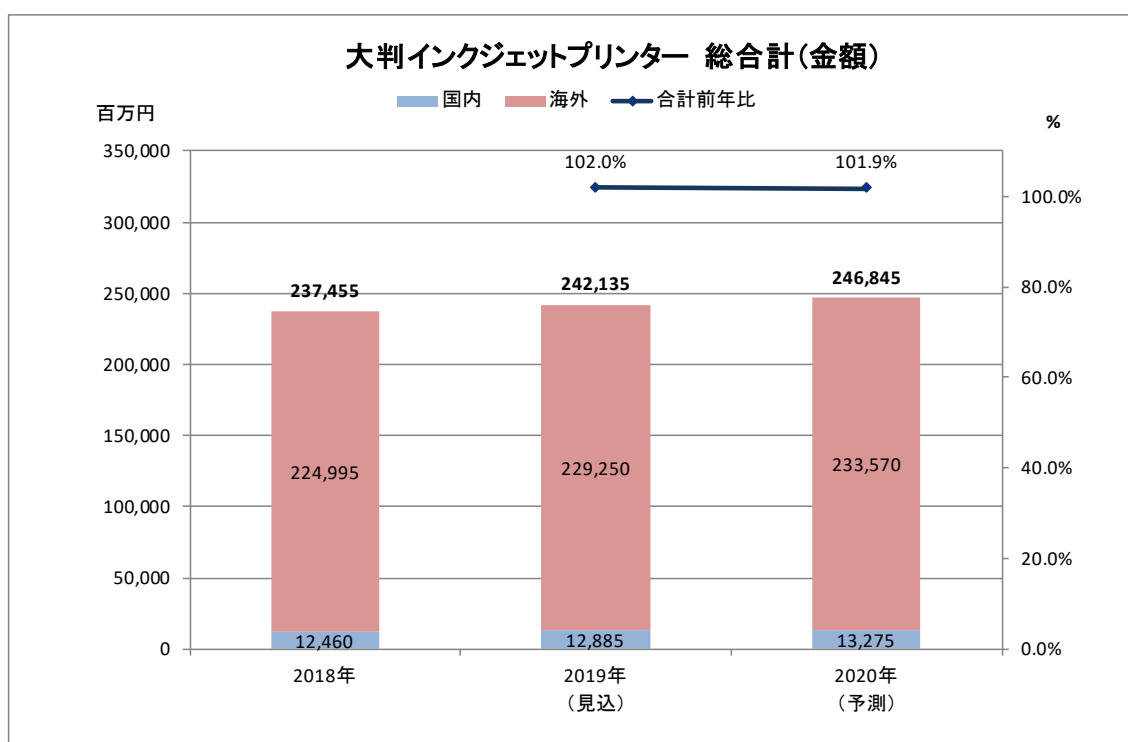
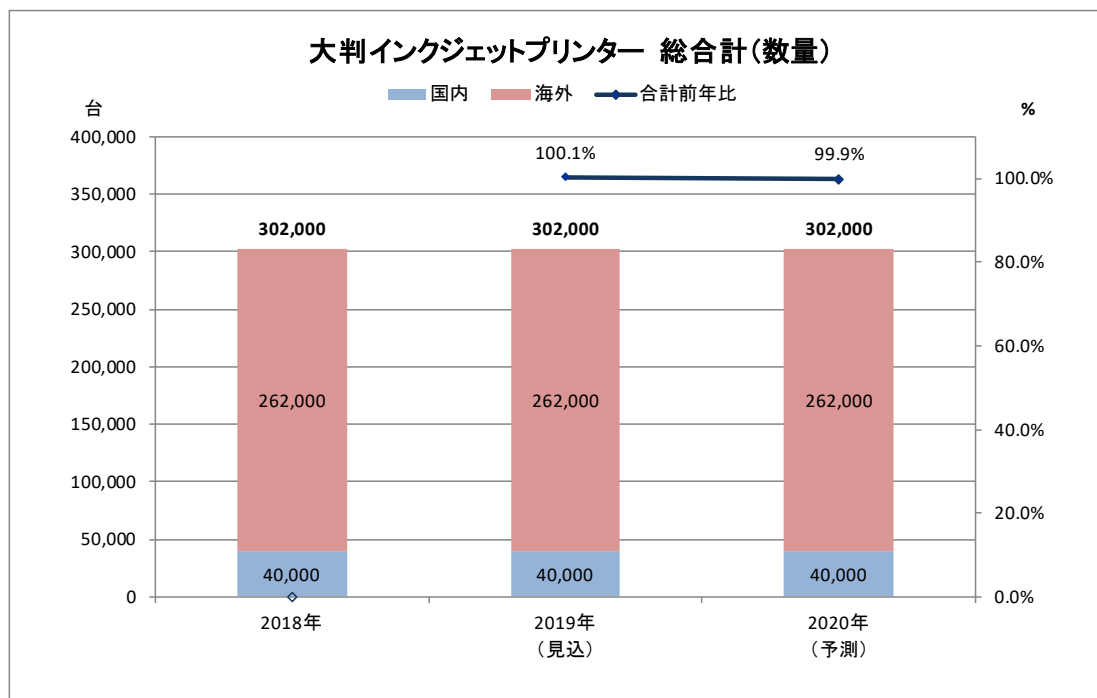
- ・ 2018 年の大型機の市場においては、主力メーカーが 5～10 万円の業務用シュレッダの販売を 2018 年から 2019 年上期まで中止していることもあり、それが台数ベースでの縮小の要因になった面がある。この影響で 2019 年の着地予想も減少となると想定される。
- ・ 小型機については、2018 年が対前年比で台数が微増しているのは、ネット通販での販売量増加が要因となっている。金額ベースでの伸びが著しいのは、小型機のラインナップの中でも、シュレッダを手動ではなくローラで、自動でシュレッダにかけていく機種が売れ筋となっており、その機種の単価が比較的高いことが要因となっている。

【2020 年】

＜国内市場＞

- ・ 大型機の出荷ペースが従来に戻るため 2020 年は対前年で増加になると予測される。
- ・ 小型機については、2019 年の売れ筋商品の販売増の傾向が継続し、2020 年も増加すると予測される。

(9) 大判インクジェットプリンター



【2019 年】

＜国内市場＞

- ・国内における A2 サイズ以上の大判プリンターの市場は、2019 年は約 39,800 台で微増する。金額ベースでは約 129 億円の規模となると予測される。

＜海外市場＞

- ・海外の大判プリンターの市場は、2019 年は約 26 万 2000 台強で微増する。金額ベースでは約 2,293 億円の規模となると予測される。

【2020 年】

＜国内市場＞

- ・出荷台数の多くは、市場成長が今後見込みづらい「GA 市場」、「CAD/GIS 市場」を中心とした「水性インクジェット商品」が占めていることもあり、2020 年トータルでは数量は横ばい、金額が微増となると予測される。

＜海外市場＞

- ・トータルでは数量は横ばい、金額が微増となると予測される。
- ・テキスタイルにおける市場に際しては、大きく「ガーメント」、「昇華転写」、「ダイレクト捺染」と市場が大別されるが、「ガーメント」商品においては、導入ユーザーが現行のプリントショップを中心とした導入から、数あるテキスタイル業者や工場向け商品の導入も今後は進んでいくと考えられる。
- ・「ダイレクト捺染商品」においても、昨今における環境規制の各国における強化などに準ずる形で、アナログ機からのシフトも期待されている状況下であり、市場の準じた形で拡大していくものと予測される。
- ・「サイン市場」においては、2019 年においても環境における規制が厳しい「溶剤系プリンター」から、使い勝手の良いとされ、単価が比較的高い「UV プリンター」へのシフトは大きく前進し、出荷台数以上に出荷金額が拡大している状況にある。
- ・大判インクジェットの市場としてはここには含まないが、「その他市場」として携帯電話のケースへのプリントなど板物への「装飾」分野が現在「テキスタイル分野」とともに伸長率が高くなっている。

事務機械の「全世界出荷に関する2019年の見込み及び2020年予測」

単位: 百万円、台、%

品目			2018年実績				2019年見込み				2020年予測			
			金額	前年比	数量	前年比	金額	前年比	数量	前年比	金額	前年比	数量	前年比
複写機・複合機	モノクロ複写機・複合機	国内	25,183	84.5	75,321	88.3	20,450	81.2	66,800	88.7	17,700	86.6	59,630	89.3
		海外	229,014	96.7	2,388,393	97.9	202,600	88.5	2,110,300	88.4	190,450	94.0	2,109,200	99.9
		合計	254,197	95.4	2,463,714	97.5	223,050	87.7	2,177,100	88.4	208,150	93.3	2,168,830	99.6
	カラー複写機・複合機	国内	184,808	92.3	451,664	98.6	182,600	98.8	441,800	97.8	187,000	102.4	453,000	102.5
		海外	460,555	102.7	2,138,052	107.1	440,600	95.7	2,103,700	98.4	438,700	99.6	2,136,730	101.6
		合計	645,363	99.5	2,589,716	105.5	623,200	96.6	2,545,500	98.3	625,700	100.4	2,589,730	101.7
	合計	国内	209,991	91.3	526,985	97.0	203,050	96.7	508,600	96.5	204,700	100.8	512,630	100.8
		海外	689,569	100.6	4,526,445	102.0	643,200	93.3	4,214,000	93.1	629,150	97.8	4,245,930	100.8
		合計	899,560	98.3	5,053,430	101.5	846,250	94.1	4,722,600	93.5	833,850	98.5	4,758,560	100.8
ページプリンター（SFP）	モノクロ機	国内	13,445	89.0	460,631	89.6	14,610	108.7	475,200	103.2	13,850	94.8	451,800	95.1
		海外	164,397	103.1	12,901,870	102.1	152,300	92.6	10,941,600	84.8	146,500	96.2	10,771,100	98.4
		合計	177,842	101.9	13,362,501	101.6	166,910	93.9	11,416,800	85.4	160,350	96.1	11,222,900	98.3
	カラー機	国内	9,361	104.5	185,919	103.4	10,765	115.0	186,370	100.2	9,764	90.7	178,350	95.7
		海外	50,784	93.0	1,881,686	98.1	49,040	96.6	1,754,600	93.2	47,900	97.7	1,793,200	102.2
		合計	60,145	94.6	2,067,605	98.5	59,805	99.4	1,940,970	93.9	57,664	96.4	1,971,550	101.6
	合計	国内	22,806	94.8	646,550	93.2	25,375	111.3	661,570	102.3	23,614	93.1	630,150	95.3
		海外	215,181	100.5	14,783,556	101.6	201,340	93.6	12,696,200	85.9	194,400	96.6	12,564,300	99.0
		合計	237,987	100.0	15,430,106	101.2	226,715	95.3	13,357,770	86.6	218,014	96.2	13,194,450	98.8
ページプリンター（MFP）	モノクロ機	国内	0	0.0	0	0.0	4,100	0.0	98,100	0.0	4,040	98.5	96,800	98.7
		海外	0	0.0	0	0.0	142,810	0.0	12,064,890	0.0	143,790	100.7	12,208,080	101.2
		合計	0	0.0	0	0.0	146,910	0.0	12,162,990	0.0	147,830	100.6	12,304,880	101.2
	カラー機	国内	0	0.0	0	0.0	15,200	0.0	92,300	0.0	15,300	100.7	93,200	101.0
		海外	0	0.0	0	0.0	128,600	0.0	4,080,670	0.0	129,200	100.5	4,186,940	102.6
		合計	0	0.0	0	0.0	143,800	0.0	4,172,970	0.0	144,500	100.5	4,280,140	102.6
	合計	国内	0	0.0	0	0.0	19,300	0.0	190,400	0.0	19,340	100.2	190,000	99.8
		海外	0	0.0	0	0.0	271,410	0.0	16,145,560	0.0	272,990	100.6	16,395,020	101.5
		合計	0	0.0	0	0.0	290,710	0.0	16,335,960	0.0	292,330	100.6	16,585,020	101.5
データプロジェクター	国内	18,440	96.8	191,458	90.9	18,865	102.3	189,900	99.2	19,420	102.9	192,000	101.1	
	海外	282,725	104.4	5,887,039	96.1	269,300	95.3	5,340,000	90.7	280,800	104.3	5,370,000	100.6	
	合計	301,165	103.9	6,078,497	96.0	288,165	95.7	5,529,900	91.0	300,220	104.2	5,562,000	100.6	
電卓 & 電子辞書	電卓	国内	5,008	96.5	4,864,417	94.6	5,230	104.4	4,985,000	102.5	4,970	95.0	4,650,000	93.3
		海外	69,180	101.4	95,418,000	96.2	68,340	98.8	94,360,000	98.9	67,900	99.4	93,270,000	98.8
		合計	74,188	101.0	100,282,417	96.1	73,570	99.2	99,345,000	99.1	72,870	99.0	97,920,000	98.6
	電子辞書	国内	19,548	110.7	1,100,804	108.5	21,850	111.8	1,215,000	110.4	23,920	109.5	1,301,000	107.1
		海外	16,640	97.3	6,402,400	99.2	16,100	96.8	6,371,000	99.5	15,565	96.7	6,279,550	98.6
		合計	36,188	104.1	7,503,204	100.5	37,950	104.9	7,586,000	101.1	39,485	104.0	7,580,550	99.9
	合計	国内	24,556	107.5	5,965,221	96.9	27,080	110.3	6,200,000	103.9	28,890	106.7	5,951,000	96.0
		海外	85,820	100.6	101,820,400	96.4	84,440	98.4	100,731,000	98.9	83,465	98.8	99,549,550	98.8
		合計	110,376	102.0	107,785,621	96.4	111,520	101.0	106,931,000	99.2	112,355	100.7	105,500,550	98.7
ECR/POS（金銭登録機）	国内	76,596	148.1	425,828	133.5	67,800	88.5	386,000	90.6	59,400	87.6	328,000	85.0	
	海外	108,262	101.0	3,083,337	100.7	109,250	100.9	3,110,000	100.9	110,250	100.9	3,150,000	101.3	
	合計	184,858	116.4	3,509,165	103.7	177,050	95.8	3,496,000	99.6	169,650	95.8	3,478,000	99.5	
デジタル印刷機	国内	6,320	93.5	21,721	93.6	5,810	91.9	20,000	92.1	5,600	96.4	19,600	98.0	
	海外	4,890	90.8	29,551	95.9	5,160	105.5	29,750	100.7	5,040	97.7	29,100	97.8	
	合計	11,210	92.3	51,272	94.9	10,970	97.9	49,750	97.0	10,640	97.0	48,700	97.9	
シュレツダ	大型機	国内	8,554	102.5	161,540	101.2	8,280	96.8	156,200	96.7	8,510	102.8	157,600	100.9
	小型機	国内	2,632	127.9	440,772	102.6	3,060	116.3	432,000	98.0	3,350	109.5	443,000	102.5
	合計	11,186	107.5	602,312	102.2	11,340	101.4	588,200	97.7	11,860	104.6	600,600	102.1	
大判インクジェットプリンター	国内	12,460	－	39,590	－	12,885	103.4	39,795	100.5	13,275	103.0	39,805	100.0	
	海外	224,995	－	262,240	－	229,250	101.9	262,425	100.1	233,570	101.9	262,125	99.9	
	合計	237,455	－	301,830	－	242,135	102.0	302,220	100.1	246,845	101.9	301,930	99.9	
総合計	国内	382,355	－	8,419,665	－	391,505	－	8,784,465	－	386,099	98.6	8,463,785	96.3	
	海外	1,611,442	－	130,392,568	－	1,813,350	－	142,528,935	－	1,809,665	99.8	141,566,025	99.3	
	合計	1,993,797	－	138,812,233	－	2,204,855	－	151,313,400	－	2,195,764	99.6	150,029,810	99.2	

※本編中のグラフ内の台数は千台で切り上げた数値にしております。

【参考】共通7品目（※）における推移と前年同期比

単位: 百万円、台、%

			2018年実績				2019年見込み				2020年予測			
			金額	前年比	数量	前年比	金額	前年比	数量	前年比	金額	前年比	数量	前年比
総合計	国内		369,895	101.4	8,380,075	98.2	359,320	97.1	8,554,270	102.1	353,484	98.4	8,233,980	96.3
	海外		1,386,447	101.4	130,130,328	97.2	1,312,690	94.7	126,120,950	96.9	1,303,105	99.3	124,908,880	99.0
	合計		1,756,342	101.4	138,510,403	97.3	1,672,010	95.2	134,675,220	97.2	1,656,589	99.1	133,142,860	98.9

※7品目については2ページ掲載の表をご参照下さい。

*調査会社：(株)インターウォッチ（全9品目）

以上

本件に関するお問い合わせ：

一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会

統計委員会

事務局 岡野 聖史

広報担当

横森 聡、佐藤 秀秋

(TEL：03-6809-5010、FAX：03-3451-1770)